たくしんNEWS

赤茜（あかなぁ）号

2023年（令和５年）９月号 vol.283

拓伸会［拓南グループ］

拓南本社株式会社
拓南製鐵株式会社
拓南商事株式会社
拓南製作所株式会社
株式会社西原グリーンセンター
拓伸商事株式会社（大阪）
拓伸商事株式会社（福岡）
株式会社薩南物産
拓鐵事業協同組合

INDEX

2 製鐵・商事・協力企業合同の安全衛生大会／製作所の安全衛生大会

5 TOPICS 県産品奨励パレードに参加／本社の健康料理講習会／製作所が社長安全パトロール／拓伸会有志2チームがオリオンSBBに出場etc.

7 連載「拓南余話」⑪

拓伸会会報（隔月発行） 拓南本社内『たくしんNEWS』編集委員会 〒900-0025沖縄県那覇市壺川３の２の４［拓南ビル３F］TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586

【赤茜】首里出身の新聞記者で俳人の石野朝季が、晩夏の西空に広がる夕焼けの美しさを「あかなぁ」と表現した

ACTION! 健康経営

「健康経営を知っている」約4割

～拓伸会健康経営事務局アンケート結果

健康経営優良法人中小企業部門ブライト５００の認定を目指す拓伸会は６月、健康経営事務局による会員企業全社員へのアンケート調査を実施したところ「50％以上も、健康経営とは何かを知らないという残念な結果が出た」（拓南製鐵安全衛生委員会の知念正元委員長）＝２～４頁参照。そこで、古波津昇会長のメッセージのもと、健康経営の目的や取り組みについてあらためて共有するため、拓南本社の長濱直次執行役員安全統括室長に寄稿してもらった。（円グラフは各社のアンケート結果）

全社員の創意と工夫で「健康経営優良法人」認定を

拓南本社執行役員安全統括室長　長濱直次

キックオフするも

拓伸会全社で、健康経営優良法人中小企業部門ブライト５００（２０２４年）の認定を目指すキックオフから約９カ月が過ぎました。

その間、「たくしんＮＥＷＳ」５月号に「健康経営優良法人２０２４へキックオフ」の記事が大きく掲載されたこと、さまざまな取り組みが行われてきたことから、われわれ事務局は、全社員に十分周知されているのだと自負していました。

しかし、今回のアンケート結果に、われわれは再度、健康経営について周知しなければいけないと強く思いました。

健康経営とは何か

「健康経営」とは、社員の健康管理を経営的な視点で考え、体と心の健康づくりを計画的に実践する経営のことです。

社員へ健康投資を行うことは、社員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化など、結果的に業績向上や企業価値向上につながるといわれ、数多くの成功事例が紹介されています。

経済産業省が推奨している健康経営優良法人認定制度（ブライト５００）は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人５００社を顕彰する制度のことです。

健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、社員や求職者、関係企業や金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として社会的に評価を受けています。

「できる目標」を設定

今年度目標の策定については、古波津昇会長から「目標は全社員が理解していないといけない。またＢＭＩが25以下、１日１万歩を目標にするのは、社員の今の生活習慣から厳しすぎないか。まずは、できる目標の設定として１日５０００歩がよいのではないか」とのご指導があり、事務局で目標設定について議論を重ねました。

その結果、全社員の認知状況、徒歩状況を把握するアンケートを６月に実施した次第です。

結果は、健康経営を知っている、聞いたことがある社員は全体の約４割、５０００歩以上歩いている社員は約３割で、血中脂質の有所見値は35％と、健康経営を知っている社員が少ないこと、徒歩数が少ないこと、有所見率が高いことを改めて認識しました。

各種取り組みに挑戦

アンケート結果では、健康経営を知らなかった社員は多数でしたが、令和５年４月から全社員によるゴルフレンジ練習、料理教室、血中脂質の説明会、喫煙に関する説

《２頁へ》

会長メッセージ

「健康経営」本格的に推進

拓伸会　会長　古波津　昇

昨今、気象の大幅な変動があり、働き方も従来から大きく変化し、さらには少子高齢化の進行も極めて速く、実際には社会の対応が追いつけてない状況だと認識しています。

いま、拓伸会は、働いている皆さんが心身共に健康であるため働き方の改善を研究しており、その効果や経緯を明確に共有するために「健康経営優良法人認定」取得申請を行います。

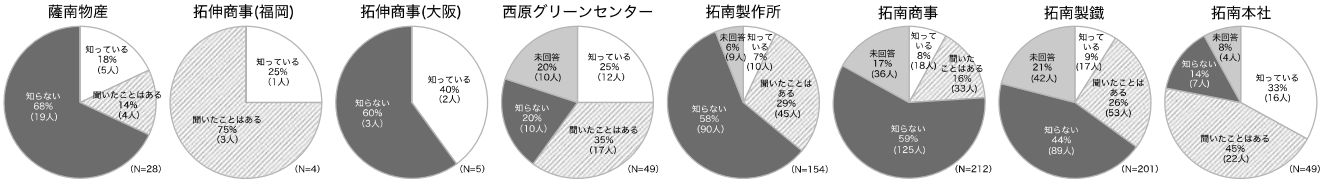
適正な労働、皆さんが安心して暮らすことができる健康づくり、過度なストレスが負荷されない職場の環境整備などあらゆる角度から会社と役職員の幸せな生活を目指します。

厳しいことや難易度の高いこともあるかと思いますが、70周年を機に本格的に推進します。皆さんの御理解と御協力をお願いします。

ご安全に！

写真は創業70周年記念式典であいさつする古波津会長

あなたは健康経営についてどの程度知っていますか？



高める意識と安全行動 築こうみんなのゼロ災職場

ACTION! 健康経営

拓南製鐵
拓南商事
協力企業
安全衛生大会

拓南製鐵・拓南商事・協力企業合同の第26回安全衛生大会が７月26日、うるま市民劇場響ホールで開かれた。拓伸会会員企業役員も含め約４２０人が参加した。今回は、各部署のゼロ災活動事例報告の後、拓伸会が進めている「健康経営の実践」「安全基本行動の深掘り」に沿った衛生講話と安全講話（各１時間）を行った。

中村明史副委員長（商事）のリードで指差し唱和

大会は、拓南商事の平田要取締役副社長による社訓唱和で始まり、拓南製鐵の八木実代表取締役社長が開会宣言をした。

「拓伸会は、社員の皆さんの健康と安全を第一に、という経営方針で臨んでいる。社員一人一人の自覚と行動が大切だ。大会を通して情報を共有し、自分のためにみんなのために、そしてご家庭のために行動していこう」

続いて、拓南商事ならびに拓南製鐵における安全衛生活動概要の報告に移った。

物損事故を重点項目に（商事）

拓南商事の安全衛生活動概要は、安全衛生委員会の中村明史副委員長が報告した。「物損事故が前年に比べて増加し、２０２１年度の12件が翌22年度は10件増えて23件になった。作業分類すると、積み下ろしは、19年度と20年度に物損事故が多発したため、各部署で手順の見直し検証を行った結果、21年度はその効果が表れた。しかし、22年度から、荷下ろし時の物損事故の件数が再び増加となった。一方、運搬では、物損事故の多い状況が続いている。今年度の重点項目にもなっているので、各部が取り組んでいく課題である。

古波津昇会長による訓示

労災の発生件数は、21年度5件、22年度5件と横ばいの状況で推移している。22年度の5件は、重機・車両などの大型機械関連が多く、乗り降りする際の被災（2件）、荷下ろし作業中のロッカー倒れによる打撲（1件）、その他の2件はクレーンの倒壊、シュレッダー運転時のスクラップ爆発音による耳鳴だった。

労働衛生実績は、22年度の有所見率が93％で、沖縄県平均の70・4％と比べてかなり高かった（1位・血糖値、2位・血中脂質、3位・肝機能）。健康経営の活動は、運動機会の提供（西原グリーンセンターで97％参加）等を実施した。今年度は、健康経営の定着、1日5000歩以上歩く、血中脂質の改善を目標に掲げている」

安全基本行動を深掘り（製鐵）

拓南製鐵の安全衛生活動概要は、安全衛生委員会事務局の大内純氏が報告した。

「労働災害発生件数は、２０１９年度から22年度まで８～11件とほぼ横ばい。今年度はすでに3件の労働災害が発生している。『これ以上災害を発生させない』という確固たる意志をもち、今年度品質方針にもある『変革への挑戦』を念頭にして安全活動を推進していく。

今年度は、安全基本行動を深掘りする。昨年度は『安全基本行動』を『知ることが当たり前』として普及に励んできた。今年度は『守ることが当たり前』という『意識の変革に挑戦』する。各部が知恵を出して活動を展開しており、その内容は、安全衛生委員会委員長が毎月のヒヤリングで確認をしている。

また、深掘りの一環として、社長パトロールでの全部署ＫＹＴ確認を実施している。

労働衛生実績は、有所見率が90％と高止まりしており、昨年度は保健師面談や食育教育などを行った。今年度は、健康増進委員会のメンバーを各部から選出した。心と体の健康を高める施策を考え、社員一人ひとりが長く元気に働けるように職場環境を構築している」

《1頁より》
明会、ラジオ体操の講習会や担当者向けの女性の健康セミナー、また有志によるハーリー、野球大会などを実施しています。（9月号は関連記事に「ＡＣＴＩＯＮ！健康経営」の統一ロゴ＝見出し参照＝を貼付）

全社で、健康経営の各種取り組みにチャレンジし、着実に推進しています。

拓伸会の新しい創造

創立70周年の記念式典が6月1日に国立劇場沖縄で開催され、古波津会長から100年企業を目指して取り組んで行く方針の説明がありました。

拓伸会が健康経営優良法人に取り組むプロジェクトを、100年企業に向けてこれからの30年間、社員やその家族が健康で安全に、安心して暮らしていけるようにするための拓伸会の新しい創造ととらえて、全社員の創意と工夫で取り組んでいきましょう。

鉄鋼処理産業
知念敏彦氏

拓南商事営業部
比嘉恵一朗氏

拓南商事リサイクル事業部
喜屋武司氏

拓南商事工務部
大城祐貴氏

拓南製鐵製造部製鋼班
棚原大樹氏

拓南製鐵技術部
比嘉章雄氏

小湾運送
伊佐信治氏

泉産業
徳永博文氏

拓南製鐵加工センター
仲眞魁人氏

拓南製鐵品質管理室
我謝佑太氏

拓南製鐵製造部石灰工場
新川琳汰氏

拓南製鐵製造部圧延班
志慶真優也氏

「安全と衛生は両輪だ」

続いて、古波津昇会長が訓辞を述べた。

「転倒や不注意による事故がまだまだ続いている。指差し呼称は、会社だけでなく、横断歩道を渡るときや家庭に帰ってからもしっかり心掛けてほしい。日常生活の中で不安全状況、不安全行動をなくし、基本動作をしっかり行おう。

健康経営については、さきほどの安全活動概要報告のなかで『1日5000歩以上歩く』という目標が紹介されたが、毎日続けることが大切だ。

安全と衛生は両輪である。健康で、けがのない会社生活、家庭生活を送ろう」

ゼロ災に向けて活動報告

大会は、9部署によるゼロ災活動事例報告に移った。

拓南製鐵営業部・営業管理部
新垣大樹氏

各部署とも、持ち時間7分間のなかで、前年度の活動実績、今年度の活動計画と実施状況を要約して発表した。そのなかで、特にアピールしたポイントは下記の通り。

○**拓南商事工務部**（発表者・大城祐貴氏）

水蒸気爆発を起こさない対策を重点的に報告。事務所前の安全通路の作成、受変電室のステップ作成などについても発表した。

○**拓南商事リサイクル事業部**（喜屋武司氏）

労災から学んだ「憂いを断つ」をテーマに、なぜなぜ分析（問答形式）による未然防止策等について報告した。

○**拓南商事営業部**（比嘉恵一朗氏）

4つのキーワード（しくみづくり・全員参加・毎日・短時間）を掲げ、小さな改善の積み重ねによる3S活動について報告した。

○**鉄鋼処理産業**（知念敏彦氏）・**泉産業**（徳永博文氏）・**小湾運送**（伊佐信治氏）

2月に起きたパーツクリーナー引火による休業災害（知念氏）、高所作業における置き方変更による改善（徳永氏）、荷役作業時の安全対策（伊佐氏）等について報告した。

○**拓南製鐵技術部**（比嘉章雄氏）

身だしなみチェック基準による作業服のチェック、ボール盤巻き込まれ体験等を重点的に報告した。

○**拓南製鐵製造部製鋼班**（棚原大樹氏）・**圧延班**（志慶真優也氏）・**石灰工場**（新川琳汰氏）

熱中症や火災などの新入社員安全教育（棚原氏）、安全基本行動定着化、圧延熱中症対策（志慶真氏）、毎朝実施するKYで最悪の事態を想定する取り組み（新川氏）等について報告した。

○**拓南製鐵品質管理室**（我謝佑太氏）

リスクアセスメントの一環として、薬品使用時のリスクレベルの見える化を実施。薬品使用時のリスク対策等を報告した。

○**拓南製鐵加工センター**（仲眞魁人氏）

搬送台ローラー劣化による荷崩れの恐れ、リレージョ

《4頁へ》

土屋氏の「安全講話」について

拓南本社執行役員安全統括室長
長濱直次

拓南グループは今大会で初めて、中央労働災害防止協会（中災防）九州安全衛生センター（福岡市）に講師を依頼し、安全講話を担当してもらった。講師の土屋幸一氏（安全管理士）は、九州・沖縄地区で安全指導を行っている経験豊富な専門家である。

大会企画時の講師検討段階で、拓南製鐵の知念正元副社長と親富祖茂安全衛生統括責任者（部長）から、「拓南グループ安全行動規範」の説明が十分にできる専門家に依頼したいとの要望があったので、国内で「ゼロ災運動」をリードしている中災防に打診し、協力を得ることとなった。

ちなみに、「ゼロ災運動」は、中災防が1973年に提唱し始めたもので、今年で50周年を迎える。人間尊重の理念に基づき、全員参加で安全衛生を先取りし、一切の労働災害を許さず、ゼロ災害、ゼロ疾病を究極の目標に掲げ、働くを究極の目標に掲げ、働く人々全員がそれぞれの立場、持ち場で労働災害防止活動に参加し、問題を解決するいきいきとした職場風土づくりを目指す運動である。

KY活動に必要な「なぜなぜ」

土屋氏は、災害の発生メカニズム（新しい考え方（4M））に基づく航空機のヒヤリ事故事例の解析を通して、「気をつけて」の言葉だけでは効果的な災害防止対策にならないこと、「面倒だから、たぶん大丈夫」というリスクテイキング（危険と認識しながらあえて行動する人間の本性）の組織的防止策（見て見ぬふりや黙認をしないことの大切さ）が安全文化の醸成につながること、あいさつ（※注）はコミュニケーションの基本であること、安全指示の分かりやすい伝え方として結論を最初に話すとともに箇条書きで伝えることなどを説明した。

また、自動回転ドアで6歳の男児が挟まれた事故に関連して、過去に32件の事故（ヒヤリハット）が報告されていた事実とヒヤリハットが生かされずに男児の死亡事故に至ったこと（ハインリッヒの法則）を丁寧に説明した。さらに、指差し呼称の効果について、個人のエラー率が6分の1以下に下がる研究結果も紹介した。

最後に、KY（危険予知）活動の深掘りとして、KY活動を改善するには、「不安全状態」の把握と「不安全行動」の予測時に「なぜなぜ」と作業内容の深掘りが必要と述べ、その結果で、質の高いチームの指差し呼称項目ができ上がる、と今回の講話をまとめた。

「安全講話」を担当した土屋幸一氏

※注…製造業・建設業の現場で「ご安全に」と呼び掛け合うあいさつは、安全意識を高揚・喚起する安全活動のひとつ。言葉の由来は、ドイツの炭鉱夫たちの間で使われていた「ご無事で（グリュックアウフ）」。住友金属工業（現・日本製鉄）の社員が日本に持ち帰り、1953年から同社で使われ、その後、鉄鋼業界を中心に広まった。

《3頁より》

イント架台上の製品落下の恐れ等のKY活動を報告した。

○拓南製鐵営業部・営業管理部（新垣大樹氏）

活動に即した衛生・安全講話

ゼロ災活動事例報告の後、拓伸会が進めている「健康経営の実践」「安全基本行動の深掘り」に沿った衛生講話と安全講話を各1時間行った。

衛生講話は「血中脂質を改善する食事について～健康情報提供」がテーマ。沖縄大学健康栄養学部助手の長嶺愛香氏が講師を務めた。

長嶺愛香氏

長嶺氏は「日本人の死因の上位に心疾患、脳血栓疾患があり、いずれも血中脂質が影響している」と前置きし、健康の3本柱（食事・運動・睡眠）、栄養バランスが取れた食事の大切さ、体内時計の影響などについて解説し、血中脂質を改善する食事のアドバイスをした。

そのなかで、夜勤の拓南製鐵社員を念頭に、夜勤時の間食の取り方、夜勤弁当の選び方にまで言及した。

一方、安全講話は「拓伸会安全行動規範について」がテーマ。中央労働災害防止協会九州安全衛生サービスセンターの土屋幸一氏（安全管理士）が講師を務めた。

安全基本行動を重点強化

両講話後、拓南製鐵の安全衛生委員会委員長・知念正元副社長が大会講評を行った。

知念正元
副社長（製鐵）

「拓伸会は今年度、全社をあげて安全基本行動の深掘りをしているが、さきほど、安全講話で土屋先生がおっしゃったように、KYがあいまいな表現になっている。今後、KYを明確に表現することを、皆さんと点検しながら一緒に進めていきたい。

ゼロ災1000日を掲げてだいぶ歳月が流れたが、いまだに達成できていない。そこでまず、1年間365日ゼロ災でいこう、と年度方針の中で最重要項目として取り上げた。安全を勝ち取るためには実践と訓練しかない。危険を感じる訓練をしていくためにKYを取り入れていきたい。

土屋氏は「安心・安全な職場づくり」について講話を進めるなかで、拓伸会の安全行動規範について言及した＝3頁の長濱直次氏による解説参照。

ところで、拓伸会では健康経営を実践している。しかし、社員へのアンケート調査で、50％以上も、健康経営とは何かを知らないという残念な結果が出た。さきほど、衛生講話で長嶺先生がおっしゃった通り、食事（栄養）、運動、睡眠（休養）が健康の3本柱だ。会社と社員が一緒になって、元気で働ける健康づくりを進めていこう」

続いて、拓南製鐵の安全衛生統括責任者・親富祖茂部長が大会宣言を力強く行った。

親富祖茂
部長（製鐵）

「基本理念である『自分のためみんなのための健康安全第一』に基づき、拓伸会安全基本行動を重点強化し、作業前KY、指差し呼称で安全意識を高め、災害を一掃する。また、健康診断結果を活用し、生活習慣改善のため、保健指導、産業医面談の取り組みを充実させ、健康職場を目指し、ゼロ災1000日達成のため、活動を実施していくことを誓う」

そして、中村副委員長のリードにより参加者全員でスローガン（「高める意識と安全行動　築こうみんなのゼロ災職場」「達成しようゼロ災1000日」）の指差し唱和を行った＝2頁参照。

閉会のあいさつは、拓南商事の川上哲史代表取締役社長が行った。

「衛生講話、安全講話で心に感じたこと、事例発表で参考になったポイントを各職場に持ち帰り、皆で共有し、活用してほしい。私は今大会で、コミュニケーションが重要であり、リスクの見える化・共有化がぜひ必要だとあらためて思った。製鐵工場の壁に貼られている標語『話せる雰囲気と伝える勇気　コミュニケーションで職場力向上』を想起した。今大会を機会に、皆で、コミュニケーションの取れるチームを意識してつくり、その中では、気付いたことをだれでも言える雰囲気をつくりあげてほしい」

司会は、拓南商事営業部営業課の橋西裕太郎主任が務めた。

ACTION! 健康経営

危ないよ 声を掛け合い 安全確認

第39回安全衛生大会　拓南製作所

拓南製作所は第39回安全衛生大会を8月17日、吉の浦会館で開いた。全社員（協力企業含む）と拓伸会会員企業幹部約180人が出席した。本部紹吉代表取締役社長はあいさつのなかで「現在、無事故無災害を継続中だが、ゼロ災1000日を達成するためには、すべての社員が指差し呼称を各持ち場で実践することが必須となる」と強調した。

大会は、労働災害で亡くなられた方々へご冥福を祈る黙とうで始まり、奥平勉取締役副社長が開会のあいさつに立った。

「安全衛生大会は、職場の安全と健康を確保するために何をすべきか全員で考え、安全衛生の重要性について再認識し、その意識を向上させようという目的で開催している。安全で健全な職場を構築するために、われわれは共通の認識と方向性も持たなければならない。集中して聞いてほしい」

続いて、古波津昇代表取締役会長が訓辞をした。

「コロナ禍後、サービス業をはじめさまざまな職場で事故などが目立っている。コロナ疲れによる油断が、事故やけがにつながっているように見受けられる。危険予知について、その面からも考えてほしい。これからも、どんなに小さな事故やけがも見逃さずに情報共有していくことをお願いしたい。見逃して情報共有できないと、大きな事故やけがにつながる。衛生面については、生活習慣の改善をしっかり行ってほしい。安全で健康な職場と家庭を築き、幸せな生活を送れるようにしよう」

本部紹吉
社長

次に、本部紹吉代表取締役社長があいさつした。

「合併当初、防錆事業所、鉄筋事業所には安全衛生委員会すらなく無防備な状態だった。しかし、この数年間、3Sを基軸とした活動の成果が表れてきた。昨年は、合併後初めて無事故無災害を達成し、現在も継続中だ。今後、ゼロ災1000日を達成するためには、すべての社員が指差し呼称を各持ち場で実践することが必須となる。一人一人が自覚を持って取り組んでほしい。また、衛生面については、BMI25未満が社員の70％以上になることを期待している。1日5000歩以上歩く努力をしてほしい。万歩計の配布を検討している」

重点項目「指差し呼称の実践」

大会は、安全衛生活動実績報告に移った。

安全管理者の西原誠課長が「安全」関係について次のように述べた。

「令和4年度の休業災害は0件で、前年度から3件減、不休災害は5件発生し3件増となった。今年度は7月末まで災害は0件である。拓伸会統一の安全基本行動カードを全員に配布し、携帯させている。安全基本行動は浸透しつつある。今年度の安全重点項目は『指差し呼称の実践』だ。これまでに発生した災害で指差し呼称を実践していれば防げた災害が7割ほどあっただけに、実践項目の吸い上げを行い、作業工程ごとに実施するよう指導している」

西原誠
安全管理者

また、西原課長は「労働衛生」関係について「令和4年度の定期健康診断の結果、有所見率は80％だった。前年度より9ポイント減少しているが、いまだに高い状況だ。検診項目のうち血中脂質、肝機能、血圧、血糖値が高い」

と述べた。

さらに、健康経営優良法人認定に向けた取り組みとして「コミュニケーションの促進」「運動機会の増進」を挙げ、それぞれの事例を紹介した。

4事業所が事故事例報告

大会は、事故事例・体験報告に移った。

4事業所の発表者が報告した。

○建設鐵構事業所（与那城出張所係員・川満義貴氏）

石油基地構内で起きたタンク設備復旧作業中の事故について紹介した。ガードローラー移動時に発生した事故の原因、再発防止策の取り組みなどについて報告した。

○防錆事業所（品質管理課係員・里西潤哉氏）

脱脂槽横で、薬をバケツですくい上げる際に起きた目への飛沫事故を紹介した。保護眼鏡の有無など危険ポイントを洗い出し、講じた対策などについて報告した。

○フォーミング事業所（配送課課長・川平良幸氏）

上空を横断している引き込み電線をユニック車のブームで引っかけ、電線を損傷させてしまった他社構内の事故を紹介した。「大丈夫だろう」という慢心を反省した。

○鉄筋事業所（販売管理課課長・盛根康彦氏）

ワイヤーがフックにしっかり掛かっていない危険な状況で作業をしがちだったが、指差し呼称導入後、事故を未然に防ぎ、減らすことができるようになったと報告した。

4事業所の報告後、健康講話が行われた。

テーマは「職場における受動喫煙対策と成功率の高い禁煙方法について」。講師は、全国健康保険協会沖縄支部の保健師・高江洲智子氏が務めた。

高江洲氏はまず、拓南製作所の直近の喫煙率27・5％（153人中42人）を挙げ、マナーからルールに替わって4年目になる「原則屋内禁煙の義務化」などたばこをめぐる状況、禁煙補助薬などについて解説した。

鉄筋事業所
盛根康彦氏

フォーミング事業所
川平良幸氏

防錆事業所
里西潤哉氏

建設鐵構事業所
川満義貴氏

健康講話
高江洲智子氏

気軽に注意できる職場に

大会は、令和5年度安全衛生標語表彰に移った。

「安全標語」の金賞は、佐和田勇氏の「**指せば高まる安全意識　指さずば広がる危険作業　指して目指そう緑十字**」に輝いた。（銀賞・安座間郁洋氏、銅賞・川満義貴氏、特別賞・屋良尚氏）

一方、「衛生標語」の金賞は新里翼氏の「**『健康ですか？』見つめて下さい心とからだ　あなたが主役の健康づくり**」が受賞した。（銀賞・佐和田勇氏、銅賞・福里大河氏、特別賞・砂川卓磨氏）

その後、建設鐵構事業所の東功一朗鐵構課課長代理による大会宣言が行われた。

「年間標語『危ないよ声を掛け合い安全確認』『つなぐ言葉でつながる明日』を合言葉に一致団結し、各自がルールを守り、災害ゼロの明るい職場づくりにまい進することを誓う」

金賞（衛生標語）
新里翼氏

金賞（安全標語）
佐和田勇氏

大会宣言
東功一朗
鐵構課課長代理

続いて、防錆事業所の仲間達哉製造課課長をリーダーに、年間標語に向けて指差し唱和が行われた。

勢理客耕司常務取締役が閉会のあいさつに立った。

「毎月報告されるヒヤリハットは、安全衛生面で貴重な気づきとなっている。これからも、他人事ではなく自分事ととらえ、危険な状況とその対応についてお互いに共有し、また、気軽に注意ができる職場を目指して連携していこう」

司会は、業務部業務課の喜友名千加子主任が務めた。

仲間達哉氏（左）らが指差し唱和

＊「トピックス」欄に載る名称、人物の肩書などは、記事を史料として活用するため、原則として当日のものとします。

TOPICS

県産品奨励月間パレードに参加

県産品の使用を呼び掛ける　拓伸会各社

7月

「県産品　みんなで創る島の価値」をキャッチフレーズに、県産品奨励月間実行委員会（会長・古波津昇県工業連合会会長）は7月3日、国際通りで街頭パレードを4年ぶりに行い、街頭キャンペーンを県庁前県民広場で実施した。県工業連合会会員、那覇市、連合沖縄の関係者ら約230人が参加した。

街頭パレードは、コロナ禍の影響を受けて4年ぶりの実施となった。拓伸会各社も役職員が参加し、猛暑の中、県産品の使用を呼び掛けた。

古波津会長は、街頭キャンペーンのあいさつで「地場産業振興の一番の近道が県産品の愛用だ。地域経済の活性化、地域雇用の確保と創出につながる。いままで以上に全県民が取り組む必要がある」と強調した。

県産品奨励月間始まる
国際通り4年ぶりパレード
沖縄タイムス（7月4日付）

パレードを率いる古波津会長（中央）

街頭キャンペーンで古波津会長あいさつ

製鐵・商事が企業訪問受け入れ

県産品奨励月間実行委員会は期間中、国・県・市町村への要請活動、大口需要者への要請活動、企業（22社）訪問などを実施した。

そのなかで、拓南製鐵と拓南商事は企業訪問を受け入れ、工場見学会を7月26日に行った。

県や市役所の職員のほか、高校教諭や一般企業職員の計23人が参加し、拓南商事を工場見学した後、拓南製鐵で動画を使った説明を受けた。席上、八木実代表取締役社長はあいさつの中で、県産品を使用することの重要性を説明した＝右下写真参照。

見学したホープ設計の大城氏と高嶺氏は、次の感想を寄せてくれた。

「『スクラップに命を吹き込む』という、資源の少ない沖縄で鉄のリサイクルへの取り組みにとても感銘を受けた。業務において建設資材を直接扱うことがないので、今回の見学により、実際にリサイクルの様子（電化製品、車等の部品の仕分け）や仕分けした部品中の鉄くずや鉄スクラップが鉄筋等へと再生する流れを知ることができ、とても貴重な経験をさせてもらった。今後の生活や仕事において、リサイクルへの関心をさらに高め、広めていきたい」

拓伸会関係者も県産品使用を呼び掛ける

ACTION! 健康経営

島野菜で病気予防を

健康料理講習会　拓南本社

7月

拓南本社は7月7日、健康経営活動の一環として、野菜ソムリエ上級プロで拓南本社ＯＧの徳元佳代子氏を講師に招き、「病気予防に役立つ島野菜の食べ方」をテーマに健康料理講習会（会場・沖縄電力那覇ビル1階カエルぴあ）を開いた。参加者50人は講演、調理実習、料理の実食を通して、抗酸化力の高い島野菜の活用法を楽しく学習した。

抗酸化力を少量で得られる

今回の健康料理講習会は、健康経営優良法人に向けた評価項目「食生活改善に向けた取り組み」の具体的な活動として行われた。

役職員が、午前実施のA班（25人）と午後実施のB班（25人）に分かれ、エプロン、三角巾（バンダナ）、ハンカチ（手拭きタオル）、マスクで身を包み、講演、調理実習に参加し、作った料理を味わった（B班は持ち帰り）。

「病気予防に役立つ島野菜の食べ方」をテーマにした講演のなかで、徳元氏は「がんの3分の1は食事が起因しているといわれている」と前置きし、次のように述べた。

「フーチバー（ヨモギ）、カンダバー（八重山カズラ）、ニガナ（ホソバワダン）、サクナ（長命草）、ハンダマ（水前寺草）、ナーベーラー（ヘチマ）など島野菜には、がん予防に役立つ素晴らしいパワーがある。島野菜と他の野菜との比較研究によると、島野菜の抗酸化力が際立っている。

高い抗酸化力が島野菜にあるのは、本土より3～4倍も高い紫外線に抗うためにたくさんのポリフェノール（ファイトケミカル）をためているからだ。

島野菜は、少量で、人体に必要なファイトケミカルを摂取できる利点がある一方、残念ながら食べにくい。そこで、島野菜をおいしく食べる調理方法を学んでほしい。そして、日々の食生活の中で、がん予防、病気予防に役立つ島野菜を上手に活用していただきたい」

感染予防対策も万全。A班の集合写真

徳元氏を囲んでB班の集合写真

講師の徳元佳代子氏

調理実習では、徳元氏のレシピに沿って「ハンダマご飯」「カラシナの棒ギョーザ」「ヘチマのカレーフライ」「ニガナの白和え」「ニンジンドレッシングのサラダ」「冬瓜のカニ風味あんかけ」「ニラ団子」「五平餅」を作った。徳元氏から「豆乳のブラマンジュ」（デザート）の提供もあった。

進行役は、健康づくり担当者の花城可人次長が務めた。

※花城次長に、今回の取り組みについて寄稿してもらった。

体得できる健康企画に

ESG推進室次長　花城　可人

今回の健康料理講習会は、拓南本社の健康経営における「食生活改善に向けた取り組み」事項の具体的な活動として企画致しました。

「野菜をもっと食べましょう」などと呼び掛ける形ばかりの周知だけでは、個人の能動的な行動に結び付きにくいと思いました。そこで、体に良いものが多いといわれる新鮮な県産野菜を実際に手に取り、専門家の指導の下、調理体験をすることで自身の食生活を再考し、より積極的に取り入れるきっかけにしようと考えました。

講師を徳元佳代子先生にお願いしたのは、6年ほど前、拓南商事での健康講演会の企画でお世話になった経緯もありますが、何より、古波津清昇創業者の秘書という経歴のある拓南本社の大先輩だからです。

いうまでもなく徳元先生は現在、テレビ・ラジオをはじめ国内外でご活躍される「野菜ソムリエ上級プロ」です。

徳元先生は講師を快く引き受けてくださり、私たちはめったにないチャンスに恵まれました。拓伸会とご縁の深い方に「健康料理」をご教授していただけて、とてもうれしく、感謝しております。

参加者からは「今まで意識しないで食べていたため、今回の講習会で島野菜の効能がよく理解できた。また、同僚との良きコミュニケーションの場となった」「島野菜は品質・効能ともに県外の野菜に負けないことが分かった。この講習会は島野菜の消費行動につながると思う」「野菜を多く食べればいいと思っていたが、野菜同士の相性や組み合わせも大切だと知ることができ、普段の食生活を改めて考え直したいと思う」などの感想が寄せられました。

健康経営に向けた「食生活改善に向けての取り組み」は、グループ各社でもかなり身近な事項だと考えます。

今後の取り組みとしては、働く皆さんの昼食に着目して、野菜をもっと食べられる環境が作れないかを模索していきたいと思います。

（健康づくり担当者）

山内氏（製鐵）を若手優秀社員表彰

沖縄県経営者協会

6月

祝福に駆けつけた山内昌博専務（左）と

沖縄県経営者協会（金城克也会長）は6月26日、ロワジールホテル那覇天妃の間で第66回定時総会を開き、席上、2023年度の若手優秀社員を表彰した。

20代の被表彰者47人のうち、拓伸会関係者では拓南製鐵の山内優陽氏が表彰された。

山内氏は、次のように感想を述べた。

「このような賞をいただけたのは、仕事場の環境や普段から良くしてもらっている先輩方のおかげで、仕事を楽しく続けられているからです。また、これからは、この良い環境を次世代の後輩たちにつなげていければと思っています」

古波津会長をロングインタビュー

「財界九州」8月号

8月

九州・沖縄の時流を知る総合情報誌「財界九州」の8月号で、拓伸会の古波津昇会長が「表紙」と「トップインタビュー」に登場した。

8月号の特集は「那覇都市圏」。古波津会長をロングインタビューした記事は「拓鐵興琉の精神を次の世代に継承し、沖縄の発展を下支えし続ける企業へ」という見出しのもと、計5頁に渡っている。

同誌は、そのリードのなかで拓伸会を「鉄鋼業を通じて循環型社会の構築に取り組みながら、県経済の発展に大きく貢献してきた企業像は、時代の数歩先を歩んできた感さえある。さらに近年は、ESG（社会・環境・企業統治）経営や働き方改革の積極的な推進など、次の時代を見据えた経営に徹している」と紹介している。

拓南余話⑪

先日、鈴木さん（たくしんNEWS編集委員）との談笑中に、「近頃、〝沖縄タイム〟という言葉を聞かなくなりましたね」と言われた。そういえば死語になってしまったのかトンと聞かなくなった。

そこで、今回は、1960年代当時の時間に対する世相がどうであったのか、それが会社内でどのような影響を及ぼしていたのか、感じたことを書くことにした。

〝沖縄タイム〟とは、すなわち会議や会合あるいは結婚披露宴などの開始や参集が定刻通りに始まらず、数分から数時間遅延して始まる時間のことである。

この慣習が一般社会で許容されていた。このことは、ゆったりとした時間感覚について少し触れた拓南余話⑧の〝テーゲー主義〟と密接な相関関係にあるものと思っている。

ところで、会社内での会議や会合はどのようなものであったのか、その頃の様子を見てみよう。

社内での会議は当時、月1回だった。会議というよりは通達が主で、生産目標とコスト低減（ミス材の減少）であった。

本格的（？）な会議は、コミュニケーションをもじってノミニケーションと名付け、終業後7時頃から小料理屋で酒肴を前にして、会社幹部とわれわれ末端の管理者も参加して行われた＝写真参照。

問題はその開始時間である。7時頃からと書いたのは、指定された定刻通りに始まったことがないからだ。三三五五に集まってきて、ほぼ1時間後に開催されるのが常であった。

沖縄タイムと東京五輪

黒島　善茂

それには訳があり、既婚者はいったん家に帰って風呂を浴びたり、腹に多少詰めて来るのである。しかし、われわれチョンガー（独身者）は時間を持て余しており、さらには先輩たちより遅れるわけにはいかず、定刻に出席していた。こうして全員がそろうのが約1時間後になってしまうのである。

こうした会議も、当初はそれぞれ意見を出し合って活発であった。

しかし、会を重ねるに従い、定刻に来た者は慣れて、皆さんがそろうまでに泡盛を飲み始めており、会議が始まる頃にはでき上がっていた。結局、議論百出の体で、会議なのか宴会なのかわからない状況になっていた。

ほぼ1年を経過した頃、会議は全て就業時間に社内で行うこととなり、残念ながら、飲み食いできる小料理屋の会議は終結となった。

1964年、東京オリンピックの開幕（10月10日）直前、本土と沖縄間を中継放送するマイクロ回線が9月1日に開設されるに至った。

その後、本土との一体感が急速に進み、〝沖縄タイム〟や〝テーゲー主義〟も、能率や効率を重視するようになり、悪しき慣習として批判されるようになっていったのである。

（拓伸会　前名誉会長）

冨里氏（製作所）を会社功労者表彰

日本溶融亜鉛鍍金協会

6月

（一社）日本溶融亜鉛鍍金協会は6月9日、東京都千代田区の如水会館で定時総会を開催した。席上、会社功労者表彰式が行われ、根本靖晃理事長が、拓南製作所常務取締役兼防錆事業所長の冨里真史氏に表彰状を授与した＝写真（右側）。

被表彰者は、全国の会員企業から推薦を受けた10人で、県内からは1人だった。

冨里氏は、次のように感想を述べた。

「表彰していただけたのは、先輩、上司、同僚、後輩および客さまや関係者の皆さまのご指導とご支援の賜物と深く感謝いたします。『今後とも鉄をさびから守る』という使命に基づき業務に励んでまいります」

社長安全パトロールを実施

総出で美化活動も　拓南製作所

7月

拓南製作所は7月1日、同社役員・管理職12人、拓南本社2人が参加し、社長安全パトロールを実施した。

本部紹吉代表取締役社長は、フォーミング事業所リン酸工場前で開始前のあいさつを行い、「特に、作業をしている社員に目を配り、指差し呼称を実施しているかチェックしながらパトロールしよう」と呼び掛けた。

一行は、フォーミング事業所（案内者・川平良幸課長）、防錆事業所（仲間達哉課長）、建設鐵構事業所（下門健一部長）、鉄筋事業所（盛根康彦課長）の順に視察した。

パトロール後、鉄筋事業所事務所内で総評が行われた。

席上、本部社長は「安全パトロールを行う度に良くなっているが、事業所によっては多くの指摘事項があった。3S活動に終わりはない。ゼロ災を達成するため、指差し呼称を実施するように引き続き指導し、前進して行こう」と述べた。

拓南本社から参加した長濱直次執行役員安全統括室長は「全国安全週間の期間中、また、前日に県内で産業死亡事故が起こった中で社長安全パトロールが行われたことは大変意義がある。パトロールの指摘事項は速やかに改善してほしい」とアドバイスした。

ACTION! 健康経営

健康経営活動で地域貢献

社長安全パトロールに先立ち、健康経営活動の一環として美化活動を同社総出で実施した。

会社前の海岸沿いを中心に、砂浜や緑地帯でゴミ拾いや草刈りを行った。30分ほどで約50袋分のゴミを回収し、村民の皆さまが気持ちよくウオーキングできる環境になった。

ACTION! 健康経営

草野球で健康経営活動

有志2チーム、オリオン大会出場

8月

ブライト500に向けた有志による健康経営活動として、拓南野球クラブと拓南製作所野球部がそれぞれ、オリオンスーパーベースボール大会2023に出場した。

拓南クラブ、初戦で惨敗を喫する

拓南本社・拓南製鐵・拓南商事・NGC合同で発足した拓南野球クラブは8月11日、吉の浦球場で初戦に臨んだ。相手は、長崎日大卒等の選手で構成された明倫館。

拓南クラブ先発のエース・新城甲斐投手（商事）は4回まで無失点ピッチングを披露したが、5回、明倫館打線につかまって7失点。6回、リリーフエースの石原昌一郎投手（本社）がマウンドを引き継いだものの、相手打線の勢いを止められず、10対0でコールド負けを喫した。

拓南クラブ打線は沈黙。主砲・比嘉洋輔選手（本社）の1安打のみという惨敗で、ナインらは吉の浦の曇天を仰いだ。

参加した拓南本社人事部の比嘉次長は、次のように感想を述べた。

「当日はスコールもあり、バッドコンディションな環境ではありましたがけがなどはなく、楽しみながら野球ができました。また、雨天候にも関わらず、各社から15人ほど応援にも駆けつけてくださり、声援や差し入れもいただきました。各社との交流機会もつくれ、大変有意義な大会となりました。今後は、当大会の継続的な参加を含め、さまざまなイベント企画を通じて社内外交流の場を設けるきっかけをつくるなど、継続した健康経営活動に取り組んでいきたいと思います」

製作所野球部も涙、格上に惜敗

一方、4事業所の交流活性化と社員の健康促進を図る拓南製作所野球部も8月16日、具志川球場で同大会1回戦に出場した。相手は、職域Bクラスの格上チーム・サンブラ工房PROGRESS。

製作所野球部は序盤、ミスで失点し、苦しい展開となったが、リリーフエースの比嘉太陽投手（防錆事業所）による好投で試合の流れを引き寄せた。最終回、製作所打線が噴火、一挙に3点を返して逆転の気運が高まった。しかし、あと1本が出ずにゲームセット。6対3の惜敗となり、1回戦で涙を飲んだ。

拓南野球クラブ

参加した業務部業務課の知念直成課長代理は、次のように感想を述べた。

「公式戦では1勝もできてないので練習を充実させ、レベルアップを図ります。9月に控える職域大会で良い結果が出せるよう皆で協力し、頑張っていきます。今回の試合は悔しい結果となりましたが、各人ケガ等もなく楽しみながら野球ができました。また、社員やその家族約20人が応援にも駆けつけてくださり、差し入れ等もいただいたりと各事業所間の交流もでき、大変有意義な大会となりました」

拓南製作所野球部

行き場を失ったマンゴー救済

拓伸会県内各社

拓伸会県内会員企業と協力企業は8月、台風6号の影響により輸送が滞った北部共選マンゴー（アーウィン）を購入し、各社社員に配布した。

これは「生育状況も良く、大変おいしい仕上がりになっているが、県外出荷等ができず、販売に苦慮している」という北部地区営農振興センターの協力依頼（特別販売）を受けた地域貢献活動で、拓伸会県内5社代表者の賛同を得て個人分を含め約800ケース（1ケース約1・5キロ）を購入した。

拓南本社総合企画部総合企画課の島袋緑主任は「納品時、先方が、たくさんの購入に感謝の意を表してくださいました。今回の拓伸会の活動は、微力ながらも『みんなの為に』なったと思います」とコメントした。

マスクの向こうは満面の笑み

ACTION! 健康経営

平安座ハーリー大会に出場

拓南製作所　山野　要

平安座ハーリー大会が6月25日に開催され、健康経営活動の一環として拓南製作所の2チームが参加しましたので報告します。

今大会は、「一般」「同期生対抗」「小中校生」のチャレンジ種目のレースで、全70チーム以上の参加がありました。

拓南製作所は、4事業所の若手社員を中心に構成したAとBの2チームが「一般」の部に出場しました。

両チームとも奮闘しましたが、Aチームは41位（3分31秒41）、Bチームは42位（3分35秒71）という結果でした。

残念ながら予選を突破することができませんでしたが、「来年こそは事前に練習を行い、今回以上の結果を残そう！」と一致団結することができたと思います。

レース後、社員とその家族は、一緒にハーリー観戦をしながらBBQを楽しみました。

（鐵構部与那城出張所所長代理）

掲示板

2023年7月1日～8月31日

＊一部、未紹介分も掲載しています。

編集後記

9月号は「健康経営」がテーマになりました。拓伸会は、安全衛生活動と技術改善活動という両輪のもと、独自のESGを目指しています。両活動大会で幹部は「指差し呼称」の大切さを必ず説きます。それは「気づき」のエネルギーを発奮させる魔法のおまじないだからです。ほんとうですよ。試しに、鏡の前で「（自分の氏名）、よし！」とやってみてください。（鈴木）